

## こだわりの技術と情熱を持った 生産者のおもてなし

弘津 雄一（ひろつ ゆういち）  
ワインを楽しむ会 実行委員会代表

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しくー北海道」運動第9回コンクールで奨励賞を受賞した「ワインを楽しむ会」実行委員会代表の弘津雄一さんにお話を伺いました。

### 《フルコースのまち》

余市町は、面積の約67%が山林、約14%が畑地という豊かな緑に囲まれた町です。

なだらかな丘陵に広がるブドウ畑、眼前に広がる日本海の素晴らしい景観と、りんご、なし、ブドウなど「北のフルーツ王国」と呼ばれ、日本海の魚介類、そして50軒以上のヴィンヤード（生産者）が集積する日本有数のワイン用ブドウの産地。

余市町が「フルコースのまち」とアピールする、まさに〈景観〉・〈食〉のフルコースを堪能できる魅力たっぷりのまちです。

### 《ワインのまち》

「ワインを楽しむ会」は、生産者がワインを勉強するための飲み会から始まりました。

余市町民にワインの魅力を知ってもらい、たくさんの人に飲んでもらいたいとの思いが形となり、1年に一度（2月の最終土曜日）、ワイン生産者が中心となって町の公民館で開催しています。



2025年2月22日（土）に開催された「ワインを楽しむ会」



幻想的なワインボトルのローソクに導かれる会場では、定額チケット制で、約50種類の銘柄のワインがフリーで楽しめます。初めは町民に向けた会でしたが、口コミやSNS等の配信から広まり、今では全国からチケットを求める人が殺到しています。余市町では当会のほか、「ラフェト・デ・ヴィニュロン・ア・ヨイチ」と題し、ブドウ畑を巡り、造り手との会話を楽しみながら、産地のワインや料理を楽しむイベントも行っており、「ワインのまち」としても全国に注目されています。

### 《30年の歴史の中で》

実行委員の面々たちは、40年前にりんご農家からブドウ用ワイン農家に転身したレジェンド、こだわりと情熱を持ち新しい息吹をもたらす新規生産者やワイナリーが一堂に会して会を盛り上げています。そこにはいろんな交流が生まれ、ワインを楽しむ会はどんどん拡がりました。そのため、参加者の半分以上が道外在住者で、会場も人数に限られてしまうため、町内限定の会を別に開催するべき、数回に分けて開催したらどうかなどの意見もあり、課題はいろいろありますが、この会の存続する秘訣は「新しい人が意見を言いやすい環境を作ること」と親しみやすい笑顔でおっしゃいます。

人を惹きつける魅力的な「ワインを楽しむ会」が今後も盛大にますます盛り上がっていくことは間違いなんでしょう。

※当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。